「隅田川」

後見が塚の作り物を置きます。

ワキの、隅田川の渡し守が登場します。

ワキ・・渡し守

渡し守は、近頃の雨で水かさが増しているので、少人数では出さないと述べます。

ワキツレの商人や多くの人たちが、船に乗せるよう渡し守に頼みます。

ワキツレ・・商人

旅人の後ろから何やら騒がしいので何事かと訊ねると、都から来た女物狂のようです。

その女がたいそう面白く狂うとのことで、渡し守はしばし舟を留めて、物狂がやってくるのを待つことにしました。

シテの女物狂が現れます。

シテ・・女物狂

面・・曲見

女は都に住んでいましたが、人買いに我が子を東国に連れ去られ、物狂となり行方を尋ねてここまで来たのでした。

業平が都鳥に想い人を尋ねたように、我が子があるやなしやと訪ね歩いてきたのです。

渡し守との問答の後、女は舟に乗せてもらいます。

見ると、向こう岸の柳の下に人が集まっているので、何かと訊ねると渡し守は大念仏だと答えます。

人買いにさらわれた少年が奥州へ連れられる途中の旅の疲れの病で命を落とし、その法要だと語ります。

それは私の子です！

なんと物狂の子は、一年前にここで亡くなっていたのです。渡し守は嘆き悲しむ彼女を塚へ案内します。

渡し守は、梅若丸の母に念仏を唱えることを勧め、彼女は鉦鼓を持って念仏を唱えはじめます。

子方・・梅若丸の幻

念仏を唱える母の前に梅若丸の幻が現れます。

母は我が子を抱きしめようと駆け寄りますが、幻は消えとなり触れることはできません。

夜が明けてくると、子の姿は完全に消え失せて、塚の上の草が茫々と生い茂るばかりでした。

画：水谷 弓